

新湊中3年生 古里の未来描く

# 若者目線で鋭く指摘

中学生がふるさとの未来について市長と語り合う授業が8日、射水市新湊中学校（亀田重幸校長）で行われた。3年生が地元の特産品や名所について調べたことを夏野元志市長に発表。生徒たちは行政の政策や考え方に、夏野市長は生徒ならではの視点にそれぞれ理解を深め、射水の将来像について意見交換した。

【webunに写真5枚】

特産品料理

海王丸

内川

## 市長「説得力ある」

3年生は「射水市の未来を100人が11の班に分かれて考え、自分たちができること興味のある分野について調査を考えよう」をテーマに総合し、今後の課題やその解決策を考えた。約

この日は①新湊の特産品を使った料理レシビの製作②海王丸パークの在り方③日本のベニス「内川」と観光一をそれぞれ調べてきた三つの班が

夏野市長に内容を発表した。生徒は、カニやコンブとい

った海の幸を使ったビザを提案し夏野市長らに振る舞ったほか、海王丸パークに観光車やコーヒー店などを設けるべきなどと提案していた。

中には「恋人の聖地である海王丸パークでクリスマスにイベントを催せば冬場の集客につながる」「内川周辺に宿泊施設を誘致すれば観光客が増える」といった鋭い意見も出た。

夏野市長は真剣な表情で発表を聴き「すぐに取り組むべき意見があった。しっかりとした調査による説得力のある提言を基にまちづくりを進めたい」と話していた。



生徒の発表や提言を基に射水の将来について意見交換する夏野市長（右）